



——— 自立への道案内 ———



もくじ

●私たちの自立記念日（身体障害者福祉ホーム「あいえる」編）	2
●社会資源情報（牛井編）	12
●社会資源情報（ネットカフェ）	18
●リレーエッセイ（最終回）（山下大祐）	19
●編集後記	24

社会資源情報

吉野家・松屋 編

【吉野家バリアフリー情報】



- 調査日時：2009年6月6日（土）
- 調査場所：吉野家 臨海二色の浜店
- 調査場所の連絡先
電話：072-438-3533
- 最寄駅：南海本線 二色浜駅
- 調査者：手動車イス使用者2名



- 二色浜駅を降りたらこんなものが！



- 駐車場の状況
障害者用スペースはなかったが、広い
ため車は止めやすい。ただし駐車場の
間隔が若干狭く、車が隣に停まってい
る場合には乗降がしにくい。



○入り口の形状
スロープなし、段差1段（14cm）
ドアは引き戸。

○建物の中の様子
入口から見て左側がテーブル席、
右側がカウンター席になっている。
テーブル席は6つ、車イスで入れる。
テーブルの高さは77cm。



○調査してみての感想
入り口の段を越えるために店員にお願い
した。快く応じてもらえたものの、車イ
スの客が少ないのだろう、手伝い方はと
てもぎこちなかった。

【松屋バリアフリー情報】



○調査日：2006年6月26日（金）
○調査者：手動車イス使用者1名
○調査場所：松屋 東住吉湯里店
○調査場所の連絡先
電話：06-6760-7890



○入り口にへ行くまでに緩やかなスロープがある。



← 出入り口の扉は手動式。誰かに手伝ってもらわないと入れない？！



○店内は、テーブル席が4席ある。食券制で、調査へ行った時は、こちらが何も言わなくても手伝ってくれた。

本物のお箸で、食べることができたし、牛丼並、みそ汁付き380円は個人的には安いと思いますが、みなさんどう思いますか???



「俺達の自立記念日」

～身体障害者福祉ホーム「あいえる」編～ パート1

今回の「俺達の自立記念日」は大阪市西成区にある、身体障害者福祉ホーム「あいえる」を訪ね、入居者の仲野眸さんと、現在は「あいえる」の施設長で、仲野さんが「あいえる」に入居される前後から支援をされておられる今西梨沙さんにお話を伺いました。

紙面の都合上、今号では来年3月を目処に1人暮らしを目指しておられる仲野眸さんのお話を掲載し、次号では今西さんから福祉ホーム全体についてや仲野さんの支援を行なっている立場から感じておられることなどについて掲載します。

まず、最初に「身体障害者福祉ホーム・あいえる」についてホームページから簡単に紹介させていただきます。



わたしたちは、全ての障害者が地域で自立生活できることを目指しています。「あいえる」という名前は、自立生活 (Independent Living) の頭文字です。今でも多くの障害者は入所施設で生活したり、在宅で親がかりの生活をしています。長い間の施設や在宅の生活から自立生活に移るのは本人にとって大変なことです。

どんなに重度の障害を持っていても、いろんな支援を受けることによって、障害者同士が力を合わせることによって、自立生活は可能です。しかし、施設や在宅の状態から「いきなり自立」というのは誰にとっても困難です。「助走期間」が必要です。

そこで、当ホームは施設や在宅から自立生活への「ステップの場」として生まれました。最長で3年間、ホームで仲間と生活し、介護や支援を使うことに慣れながら自立生活に移行していただきます。

主人公紹介

仲野眸さんは6歳のとき、児童施設に入所。超過児という形で20歳まで入所。「あいえる」には施設のワーカーが入居者募集のビラを見たのがきっかけで見学。3年前の秋に入居に向けたILPを行ない、翌年3月に入居。身体障害者手帳・療育手帳共に所持。「あいえる」では生活全般の支援を受けられています。現在の楽しみは、遊びに行き好きなものを食べる事や車のおもちゃのコレクション。20台ぐらい持っていて宝物だそうです。子どもの時から、男の子と遊ぶことが多かったというパワフルな女性です。

施設は辛い思い出だけ

南光:今日は色々とお話をお聞かせください。仲野さんは入居されて何年目ですか？それと、「あいえる」に入ろうと思ったきっかけをお聞きできますか？

仲野:入居して3年目ですね。来年の2月末で退居予定です。児童施設に6歳から20歳まで入っていて、自分がおった時は、つらいだけしか感じられへんかった。早く出たかった。今日も、その施設に仕事で行かせてもらった。今、入ってる人も早く出たいと思ってても、それでも笑って私1人が行っただけで玄関まで来て「遊ぼう！」って走ってきて、その子達を見て切なかった。やっぱりもっと地域の風に触れさせてあげたい。という気持ちでいっぱい。

南光:辛い思いが一杯あるんですね。

仲野:自分がつらい思いしかしてないところやから、今日も行きたくないって思った。「あの頃の自分が何やったんやろ」って感じて、「行けへんように、行けへんように」って仕向けてた自分が切なくなってきた。でも、行く事でそういう自分を打破出来て。

松崎:行って良かったですね。

仲野:それだけじゃなくて、今施設に入所してる人をもっと笑顔にさせてあげたい。ものの数分でも

いいからドア1枚でもいいから出してあげたいという気持ちでいっぱいになりました。自分が地域で活動をしていって良かったって思った、今日みたいな事をもっとやっていくべきやなと思うし、自分達で動かないとアカンのかなと思った、「遊ぼう」という子達を見て、「こんなんでもいいんや」とって、そんなんで満足するんやって思って、早く出させてあげたいし、もっと出られる場を作ってあげたいし、自分も出てきて良かった。

南光: 自立を考えた直接のきっかけは？

仲野: 親にも手を煩わせんこうと思っていたけど、一人暮らしの道を選ぶのはいきなりではしんどいから、「あいえる」を見つけるきっかけをケースワーカーさんとかがくれて。今ではもっと早くに「あいえる」に出会えてたらもっと良かったんちゃうのかな？という気持ちもあるけどね。そう思うのは、今が幸せやし仲間がいる重みやったり、自分でこんなんできるんちゃうのかな？とか自分が辛いときに1番に助けてくれる人もおって、やっぱり、反対に自分も支えになれたらいいなと思って、もっともっと自分で出来ることはやっていくべきやと思う。今日行ってみて思った事です。

自立に向かわせたパワーは？

吉田: 他にも、仲野さんを自立に向かわせたものが何かあるように思うんですが…。

仲野: それは親への不満かな？親に「あんたは何にも出来へんやろ」と言われているのを打破したかった。「出来へんやろ」と言われて自分でも「出来へんねん」と思って、もし今でも家に閉じこもりっきりでおったら、本当にまだ何も出来へんかったと思う。そのままやったと思うし、今、お母さんも兄弟もいとこや周りからも「頑張ってるねんなあ」と言ってくれるようになったし、認めてくれるまで頑張ってきた自分もおるし。

南光: すごいパワーですね！

仲野: 「認めてくれる」とか言う以前の問題なんですけど、支えてくれてた仲間も居るし、いろいろ感じる事があった。その色々なことから、「頑張らなアカンのかなあ。自分が頑張ることで地域はどう変わっていくんやろ。施設の現状ってどう変わっていくんやろう」という楽しみがあるし、自分がおった施設の子達の未来が掛かってるんやぐらいの気持ちでこれから携わっていけたらいいなと思う。

松崎: 今までの関わりの中で、思う事ってどんな事ですか？

仲野: もっと、施設に入ってる人に外からの刺激で新しい発見とかあれば、と思う。障害が重たくても喋れるようになっていたりする子もおるんや。刺激が大きいとそんだけ出来ることも増えてくるんやなっていうのも感じた。私が施設から出た頃には喋れなかったり言葉の理解も難しいねんと言われてた子が、今はしっかり理解して喋れるようになってたりとか。言葉数は少ないかもしれないけど。

南光: 確かに、刺激って大切ですね。

仲野: ご飯投げて全然食べられへんかった子が、トイレ行ってくるわ、歯磨きしてくるわって言うて普通の生活をするようになれるんやということ、私が見たんやから間違いないし、こういう刺激を受けたらこういう風になっていくんやっていうのは保障できたわけやし、見てわかったわけだから、障害あるから出来へんやろって言うていく人も、まだまだ居てるやろうけど、そうじゃなくて見守り次第でなんでも出来るとか、サポートのあり方次第で何でも出来るんや。というを目で見て思いしらされたんかなと思って、すごい勉強になって嬉しかったし、自分の生きるスキルにもなったし、いろんな面で今日の経験を生かしていきたいと思う。

吉田: 私達も今日、取材に来てほんとによかったと思います。

仲野: 「また、来てな。遊ばな一。」って言うてくれた子もいっぱいおるし「今度ゲーム持って来るわ。」って言うたら、それだけで喜んでくれて。ゲーム1台でそんなに嬉しいんやと思ったりとか、私も面白かったし、楽しかったし。自分の経験って大きいなって沢山思っ、これからも生きていく上で色々な経験していきたいと思う。今日の取材にしてもナビの人と関われるきっかけにもなったし、やっぱり、繋がれるきっかけっていうのは大きいし、障害者、健常者関わらず生きてる人みんな仲間になっていけるような社会が出来たらいいと思う。それと、生きていく上で生きる術、働いてお金を得てというところも障害者やから出来へんじゃなくて、障害者だから出来へんと思っている人が居るのも事実やけど全員が全員がそうじゃなくて、出来るとか出来へんとか分け隔てするんじゃないで、「やってみる。」から始まる社会があつたらええなって思ってます。



引き出しには宝物のミニカーが

「生かされてる世界」から「生きる」に

南光:ところで、福祉ホームに入る前は、不安があったと思うんですけど。

仲野:不安がなかったっていうたら嘘になるけど、不安よりも期待が大きかった。やっと、自分の羽根が伸ばせる、やっと「生かされてる世界」から「生きる」になるんやっていう期待。「早く自分で生きられるようになりたい」って支援を受け始めた時から。今西さんにも言ってる。私は、早くあの世界から出たい。早くこの壁を破りたいって思ってた。出てきて、「幸せが待ってるんやで」って言われていて、本当に幸せが待ってた。「生かされてる」じゃなくて「生きてる」なんやって感じるようになって、自分の好きなものを好きな場所に置いて、好きなテレビを観て好きな時にお風呂入ってっていう生活が出来てる。これが普通で当たり前かもしれないけど。

南光:障害がない者にとったら「普通の生活」ですよ。確かに…。

仲野:そのことをやっぱりもっと解かってほしい。例えば、「健常者として生きることが特別やねん」ぐらいに思って、健常者を意識して生きるような健常者が増えたらいいな。そしたら、障害者が障害持ってることが特別じゃなくて、今は健常者は出来ることが当たり前と思ってるけど、それは当たり前じゃなくて特別なように感じて生きるようになって。社会が変わると思う。

健常者も変わらなきゃ！

松崎:具体的にはどんな事ですか？

仲野:今は弁当自分で作って持って行って、仕事して疲れて帰ってきて風呂入って、ちょっと飲みたいときに飲んで。平気で遊んでるし。夜もヘルパーの時間許す限り夜遊びしてる。でも私みたいに、本当に自由が手に入るのは当たり前じゃなくて、まだまだ特別な事なんだし、そんな状況を何とかしていかなくとも思えるような健常者が、もう少し増えてくれたらな。

南光:健常者がそこまで思えるようになったら、確かに世の中変わりますよね。

仲野:それと、着替えるにしても健常者やったら、ものの1、2分で終わるんやん。それを30分して、やっと出来たっていうたら、私にしたらすごいことや。もちろん30分かかってでも自分でやりたいからやるんやっていうのと、やらされてやるんやっていう気持ちは違う。その違いが大きい。

南光:自己選択っていう事ですね。

仲野:施設におったらやっぱり「自分で出来るでしょ。やりなさい。」っていう言葉が凄い飛び交ってるから。生かされてるなって感じ。でも、今は「今日は30分かかって自分で着替えるんや！」って思って、朝5時に起きてヘルパー来るまでに着替えといて、ベッドから降りしてやる日もあれば、「疲れたわ。着替えやって。」っていう時もあるし。

毎日違って当たり前。手動が元気にこげる時もあれば「もう、今日電動でええわ。」って思う時とか、ヘルパーがおるんやったら「手動で行ってまえ。」とか思う時もあったりとか。自分で望んで着替えをするならいいし、30分かかってでも1時間かけてでも「自分でやりたいんや。」ならいいけど、「やらされてやる30分」ってものすごい苦痛やと思うから。「無理してる」と「楽しんでやる」とは違うから、そういうことを施設にいる人に伝えてあげたいなって気がする。



親心もわかるけど

松崎: 家族から、自立する事に反対はなかったんですか？

仲野: 私は「やっぱり子どもが障害者である以上、親が面倒看なアカンじゃなくて」と思うけど。親は親心として「3食食べれてお風呂入れて寝れて、ほったらかしじゃなくて」という生活を望むから、施設に居てくれたら安全やのに、なんでそんなとこまで飛び込もうとすんの？っていう親もいるし、それも親心やから言うて当たり前やと思う。言うなっていうのは無理やと思うけど、私の場合には、それを、そうじゃなくて「これをしたいから、出るんや！」っていうた。そうしたら「あんた何も出来へんやろ。」と親に言われた。

吉田: やっぱり反対はあったんですね。

仲野: その時には、大喧嘩して出てきた。何でか言うとお母さんだって私の介護の為だけに生きてきたわけちゃう生まれてきたわけじゃないし、生まれてきた以上お母さんの人生でもある、子育てはその中の一部でしょう。お母さんの人生を全部私にくれてしまうと、お母さんは好きな事出来んと終わってしまう。っていうのが、すごい嫌やって。せめて「家の近くに住みや。」って言うてくれたけど、そんなしたら何かあったら 実家に頼ればいいやっていう甘えが出るから、それをしたら自立の意味がない。私は、わざわざ西成区に住民票を移して、「あいえる」に来た。

南光: 今はお母さんには理解してもらえているの？

仲野: 今では、お母さんも好きな時に友達と呑みに行くとか出来てて「ありがとう、嬉しいわ。」って…。母の日のプレゼント持って行ったら「ありがとう。こんなんくれるの？」って言うてくれたりとか、本当のお母さんを見れた気がするから幸せかなあって思って。やっぱり、生きてて良かったって思って、むしろこの体に生まれて良かったなぐらい思って。この前、お母さんに「こんな体で産んでゴメンな。」って言われて「いや、ありがとう」というと、「最高の褒め言葉やわ。」って返ってきた。その時、この体に生まれてなかったら今関わってくれてる色んな人とも出会えてなかったし、ナビの人とも健常者で生まれてきたら携わることがもしかしらなかつたかもしれへんし。「あいえる」と携わることもしなかつたかもしれへんし。健常者には健常者の楽しみもあるやろうし、全否定出来へんけど。この体で生まれてきたことは否定する気もないし否定したら、「産まれてけえへん方が良かった、死ねばいいのに」と思うのと同じだから。お母さんに「産んでくれんで良かったのに何してくれたん？」っていうてんのと一緒やから、それほど失礼なことってないと思う。

今は障害者で幸せやなと

南光: 子供の頃から、そういう考え方かなあ？

仲野: 子供の頃は、お母さんを責めたことある。やっぱり、みんなと同じように保育園行っても出来へんから「なんで歩かれへんの？」って聴かれるのが、すごい辛くて「そなん言うても、病気やから歩かれへん。」としか言えない。「何の病気？」って子供はそこまで聞いてくるじゃないですか？それも応えることが出来へん。「産まれた時から病気やねん。」としか言われへんから、お母さんに「なんで歩かれへんの？誰がこんな体にしたん？産んでくれんで良かったんや。お母ちゃんの馬鹿！アホ！」って言うた。けど、すぐにそんなことなんで言うてもうたんやろうって思って、お母ちゃんが泣いてることに後で気づいて、すごい辛かったけど。今は、そなん言うべきじゃないと思ってるし、言うたらお母ちゃんに失礼やし。それを言うてしまうと障害者に対して全て否定することになるのと同じだから、それぐらいの力のある差別やからしたらアカンし言う気もない。自分が大人になって

初めて解かったことなんかもしれへんけど、今は障害者で幸せやなと感じる。

仲間の力があれば

南光: そう思えるようになったきっかけってある？

仲野: やっぱり支えてくれる仲間の力。「あいえる」来てから思うようになった。今西さんが担当やった最初の頃「『あいえる』いっても施設に帰らなアカンことってないの？」って聞いたら、「あいえる」としてそれは絶対せえへんよ。「あいえる」は1回施設から出たら、「あいえる」出ていっても1人暮らし始めても、一生みていく。仲野さんが嫌やって言わん限り、一生ついてまわってでもみるから。」って「死ぬまで責任とるから一緒に出ようや。」って言うてくれて、そこまで私の事、重く考えてくれてる人がいてと思った時に、そう思えるようになった。

松崎: そう言われると心強いですね。

仲野: やっぱり、自分を強くしてくれるのは、親より何より友達であり仲間であると思う。親は強くなるための手伝いをするだけ。社会で生きれるように育てるのが親の使命。障害を持ってても恥ずかしくないと思えるように。

吉田: 仲野さんのお母さんは、そういう育て方をされたんですね。

仲野: 私の親はそうやったかもしれんけど、いろんな親御さん居てるし、障害持ってることが恥ずかしいと思ってる親も中には居てるかもしれへんけど。私は、「お母さんが恥ずかしいと思ってるから恥ずかしいんやろ。本人は何も思っへんやん」って言うたら、お母さんも「あっそうなん、ありがとう、誉め言葉やわ。」って言うてくれて、やっぱり嬉しかったし自分も変わったし、その後、周りの対応の仕方も変わってきてる。やっぱりもっともっと自分で活動するべきかなあって。こういう思いの丈を聴いてもらって、例えば通信に載せてもらうことで職員とか誰か1人でも動いてくれたらいいなっていう気持ちです。

松崎: ものすごいパワーを感じますからね。仲野さんには及ばないですけど、僕も昔は、熱い気持ちがあったんですけど、そういう気持ちが薄れてきてしまっていたなっていうのをすごく感じさせられました。

仲野: 自分の場合は、自分の自由にしたかっただけ。自由にしたかったから、どこに行けばいいんやろ、って思ったし「あいえる」なかったら施設に入れられてたかもしれんし、「あいえる」に縋る気持ちで、思いっきり走ってきただけ。思うがままに走ってきて。でも、それを後悔してないし、「あいえる」と出会えて良かったってずっと思ってる。

南光: 「後悔してない」って言えるのは良いね。

仲野: 施設を出る時に施設の人が「ここに居たら、世話無いやん。なんでわざわざ、そんな他人にしんどい事させるん。」みたいなことを言われて。今日、施設に行って「あんた、頑張ってるねんな。うて一言返ってきて「よっしゃ、見返したぞ。」って感じ。「勝ったもんね。」って思っ。

足立: 話を聴いてて、親との話で「なんでこんな体に産んだんや」とかそういう親との衝突は僕にも同じようにあったし、今まで色んな当事者の友達とかに聴いて「親との衝突は僕もあるよ。私もあるよ。」っていう人もおれば「そんなことはないなあ。」っていう人とか色々おったんですけど、仲野さんのパワーは凄いなって感じましたね。



わがままとやりたいことを押し切るのは違う

南光: 他の障害者に、もっと言いたい事ありますか？

仲野:私は脳性マヒで産まれたことを後悔してない。障害持ってすごい不便やわって思う時もあるけど、それは、解ってくれる人も居るんやし、当事者同士やったら解ってくれる。みんな不便なんやから。だから、「自分だけ出来へんから、もうええねん」みたいな投げ捨てたような人生を送ってる人もおるんかもしれんけど、でも、投げ捨てるんじゃないで、出来へんからどうしようっていう相談出来るところあるんやったらしらいいと思う。障害に対して否定的なこと言うなとは思わないけど、障害持ってるから、「もう生きられへんわ。もう死にたいわ」とかは思わんといてほしい。そんなん言うてしまったら、他に障害持ってる人に対して失礼やし、それを言うてしまうと自分が投げ捨ててる以上に他の人まで投げ捨ててることになるから、そういうことは言わんようにしてほしい。もし言いたくなっても「不便やな、どうしたら解決できるんやろなあ。」っていう方向の話に持っていけたらなって思う。

南光:「障害は不便ではあるけど、不幸ではない」って、ヘレン・ケラーの言葉だったっけ？

仲野:それと「障害者だから、なにになにしたらダメでしょ。」っていう人も沢山居てはるけど、「ダメじゃないでしょ。やるんです。」っていう押し切るぐらいの気持ちを障害者自身に持ってやっていってほしい。わがままとやりたいことを押し切るのは違うから、そこの勘違いだけしてほしくないなって思ってる。

松崎:仲野さんは、どう「線引き」されているんですか？

仲野:たまにゴチャゴチャになっていて、ヘルパーの時間過ぎてるのに「もっと居ってよ。」とか言う人も居てるんかもしれんけど、それと初めから「こういうことをやりたいんです。手伝ってください」って言うのとは違うから、そこの勘違いはしないってことかな。ヘルパーの時間だっけきまってるものだから、無茶な延長とかはやめてほしいかなって思う。

幸せな家庭を築けたら

足立:最後に「あいえる」から出て、一人暮らしでの希望というか、思っではる事を良かったら聴かせて欲しいです。

仲野:1人暮らししたら、施設におる友達を呼んであげたい。ジュース1本も自由に飲めないなんて辛いじゃないですか。男の友達多いから、色んな話もしたいし。施設の中やったらゲームぐらいしかないから。ゲームも自由にさせてもらわれへんかったし。児童施設というか医療関係みたいな施設やったから、看護師詰所で預からされたりすることもあった。

松崎:長期的な事で何か目標はありますか？

仲野:結婚したい。子どもがほしい。スポーツトレーナーになりたい。幸せな家庭を築けたら充分。

南光:ピア・カウンセラーになりたいとかは？

仲野:今日取材を受けて色々話を聴いてもらって思ったのは、仲間の力になれるピア・カウンセラーになれたらいいなって思うし、ならせてもらえるなら。自分が力になれるんなら。

南光:充分なれると思うわあ！

仲野:でも、今は「あいえる」で頑張ります。

今西:ナビさんとも協力してやっていこうね。

仲野:お互い協力してやっていきたい。

南光:今日は、ありがとうございました。

松崎:いいお話をお聴きでとても良かったです。





次週第2弾は、あいえる職員の今西さんのインタビューです。乞うご期待。

気になっていた事を調べてみました！

社会資源情報

ネットカフェ編 第1弾！

報告者：小坪琢平

・社会資源情報では、今回から数回に分けてネットカフェがどのくらい車イスで利用できるのかを調べて掲載していきたいと思っています。

なぜネットカフェ調査をしたいのか？

ネットカフェ難民という言葉がニュースでよく耳にするようになってきましたが、果たして車イスで利用できるようなネットカフェが梅田・なんば・天王寺等にどのくらいあるのかが気になったのと、僕は音楽好きで頻繁にライブハウスに行きます。演奏に聞き入ってしまう終電を逃してしまう事もたまにあります。そんな時の定番は車イストイレのあるカラオケ店で「歌いながら始発を待つ！」でした（笑）
今回、ネットカフェ調査を行うことで終電を逃した時の選択肢が増える事もあり調査をしてみたいと考えました。

◇ ネットカフェの多い都道府県TOP5			全国ネットカフェ、漫画喫茶一覧ナビ・マップへの登録店舗数よりサイトに登録されていなかったり閉店した店舗もあると思われるので店舗数は参考程度にお願いします。
1位	東京	471店舗	
2位	愛知	434店舗	
3位	大阪	235店舗	
4位	神奈川	159店舗	
5位	埼玉	128店舗	

豆知識

韓国ではPC房（PCバン、PC部屋の意）、台湾では網咖（ワンカー、ネット[網路]カフェ[咖啡店]の略）、中国では网吧（Wang3 Ba4）と呼ばれており、韓国・台湾・中国などでは若者によるネットゲームへの参加は、むしろ自宅などよりネットカフェで盛んである。一方、北朝鮮にもネットカフェは存在するが、利用料金が高く、多くの一般市民が利用できないと言われる。

参考サイトフリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

調査前の下見！

以前から気になっていたネットカフェ調査をしたいと思い編集会議で立案してみました。無事にネットカフェ調査が採用？されました。調査項目と一緒に調査に行くスタッフと考えてみました。

しかしなかなか調査項目が思いつきませんでした。

それもそのはず2人ともネットカフェに行ったことがなかったのです…

まずは体験と思い梅田ウロウロしながら入れそうな店を探しました。予想通り段差があり入れない店舗が多かったです。数軒まわって入れる店舗を見つけました。

こんな項目を調査します！

- ・ 調査日・調査場所（店舗名）
- ・ 調査場所の住所・連絡先
- ・ 調査者の障害状況
- ・ 入り口はフラット・スロープ
- ・ 車イストイレが店舗または近くにあるのか
- ・ 個室には入れるのか
- ・ パソコンを打つスペースの幅はどのくらい
- ・ 通路の幅は（狭い部分・広い部分）
- ・ 料金は？（時間帯によって違うか？コースによって違うか？など）
- ・ 近くにコインパーキングはあるか
- ・ 店員の対応（車イスでは取ることの出来ない高い所の本などを取ってくれるか。）などなど

調査の詳細は次号掲載予定ですので乞うご期待！



山下大祐

【おさらい】

数年前のナビゲーションで、僕が、卓球をしていることを書きました。今回は、数年経って、今は、卓球関係でどんなことをしているか書きたいと思います。以前のナビゲーションで、僕が書いた内容を知らない人の為に、少しおさらい？？させてください。

僕が、卓球を始めたのは養護学校高等部の時。約15年前(歳がバレル?!)。きっかけは、卓球部の部員が1名しかいなかったから、先輩に誘われたことが、きっかけです。その後、養護学校在学中に国体予選を経て大阪国体にも出場しました。

【コーチは大変?!】

3年前に選手としての卓球生活は引退し、現在は大阪府のコーチと2年前から全日本のコーチになりました。コーチになると夜に会議があったりして大変だということと、すご〜く眠い!!!それに、試合に引率すること多くなり、選手とは、また違った感覚に浸っています。外国の大会には行きません!!それは、何故か!環境が悪そうだから。でも、寒い国での大会には行ってみたいかな〜。服装が格好良さそうだもんね☆

コーチになって変わったことは、都道府県のコーチとの交流が増えたことです。

【僕の『らいおんハート』はいつでしょう??】

ある日、静岡県で卓球のコーチをしてる人から連絡があり「今度、聴覚障害者の女性と結婚するから、結婚式の時に『世界にひとつだけの花』と『らいおんハート』を歌いたい。だから、手話で表現してくれへん!」という依頼が飛び込んできたのです。それを、聞いた時は少し焦りましたが、お礼を弾むということで引き受けることにしました。

依頼があってから、当日まで約1ヶ月!お礼を弾むという言葉信じて、夜は必死に練習をしました!曲を聴くのは、簡単ですが、それを手話に置き換えるのは、すごく大変!!

当日は、こんな緊張する結婚式は初めてだー!というぐらい、ものすごく緊張したけど、新郎・新婦に喜ばれたので、引き受けて良かったなと思いました。でも、もうやりません!

編集後記

前号最終ページで新人紹介されてから5ヶ月、本当にあっという間で、こんなに早く時間が経つということを改めて実感しました。そんな毎日暑い日が続く、毎年この時期を迎えるたびにどう過ごすか考えつつ、今年こそ暑さに負けないように過ごしたいと思っている毎日です。熱さと言えば、今回のインタビュー記事の取材でお話を聞かせていただいた時に気持ちの熱さを感じました。夏の暑さはパワーを奪われてしまいますが、様々な方との出会いの中で感じる熱さにはパワーを分けてもらえている気がします。『暑さは熱さで乗り切る！』今年の夏はこれでいきたいと思います！

(あだち)

大阪は、梅雨がなかなか明けないまま7月もう終わろうとしています。特にこの数年で感じる事ですが、以前は梅雨と言えばシトシト毎日のように静かに振るのが特徴だったと思うこの時期の雨が、最近は梅雨の期間でも「シトシト長雨」という感じはあんまりなくて、最近は一旦降り始めると、まさに「バケツをひっくり返した」様に、と言うか「熱帯のスクール」のようと言うか、とにかく豪雨としか言いようのない物凄い降り方をする事が多いように思います。やはり「地球温暖化」が影響しているように感じているのですが…。この文章を書いている前日にも、山口県で多くの犠牲者が出る集中豪雨がありました。そんな出来事があるたびに「地球温暖化を止めよう！」とか「CO2削減！」とかお題目を並べ「何とかしないとイケない！」と考えるのは簡単に出来るのですが、それでもどこかで「他人事」と思っているような気がします。本当に自分の生活に関わる事だということをどこまで真剣に考えているかを、自分でも見つめなおす事が必要だと思う昨今です。

さて、大阪の梅雨空と同じようにグズグズした状態がいつまで続くのか？と思っていた政治の世界がようやく動き出しました。衆議院が解散され8月30日の投票日に向け選挙戦がスタートです。言うまでもなく、こちらは「温暖化」の問題とは比べ様もないくらい『待ったなし』で生活に直結する問題です。まさか、ナビゲーションの読者の皆さんの中に今回の選挙を「他人事」と思っておられる方は居られないと思いますが、随分待たされ続けた自分の意思を政治に活かす事の出来る機会を大切にしたいものです。次号のナビゲーションが発行される頃には政治の世界がどんな風に変わっているのか。わくわくドキドキの日が続きます。

(なんこう)

▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽

自立生活センターナビとは…

☆ 私たちの考える「自立」は…

働いてお金を稼ぐ事や身の回りのことを全部自分で出来るようになる事、それだけが「自立」でしょうか？もちろんそれも大切なことですが、できない事は人の手を借りたり、気持ちを上手く伝えられないときには仲間にサポートしてもらったりしながら、一人一人の生活を創っていくことも「自立」に色々な方法でお手伝いしていきたいと考えています。

☆ 地域で障害者の自立を実現していくための「道案内（ナビゲーター）」として例えば「介護してくれる人を探しているんだけど？」「家の中をもっと使いやすくしたいけどどうすればいいの？」そして「自立したいけど自分には無理かな？」
自立生活センター・ナビでは、こうした障害者や家族の悩みや相談について、障害を持

つピアカウンセラーが同じ障害者の立場でお話を伺い、制度の説明や申請のお手伝い、住宅改造などのアドバイスをさせていただきます。その他、電動車いすで街へ出かけたり仲間と一緒に料理を造ったり地域で生活していく上で必要なことを、楽しみながら経験できる「自立生活プログラム」や、自立生活に関わる各分野の方々をお招きしてお話を伺う「自立生活セミナー」の開催、情報誌「ナビゲーション」の発行も行っています。

はっぴー
発行

じりつせいかつ

自立生活センター・ナビ

でんわ 06 (6760)2671

じゅうしょ

住所

〒546-0042 大阪市東住吉区西今川2-3-8

〒546-0042 大阪市東住吉区西今川2-3-8

ファックス 06 (6760)2672